■　審判員の判定に質問ができるのはプレーヤーのみです。

次のサービスがなされる前に限り、主審に質問することが認められています。ただし、抗議あるいは異議であってはなりません。なお、団体戦の場合は、当該プレーヤーと監督に限り質問することが認められています。（コーチは×）（大会運営規程　第 6 章 第 36 条）

■　競技フロアにおける撮影はできません。

ベンチやコートサイドからの撮影（スマートフォン、タブレット、カメラなどによる）はできません。レフェリーに許可を得た報道機関や関係者のみが撮影することができます。

■　バドミントンに「セット」という用語はありません。

選手やコーチは、競技規則にある正しい用語を使いましょう。

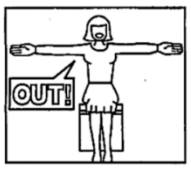
正しい用語の例	誤った用語の例
○ ゲーム	× セット
○ ラインジャッジ（線審）	× ラインズマン
○ チェンジエンズ	× チェンジコート

■　主審をするときの「スコアシートの記入方法」を覚えましょう。

競技規則（諸規程集　通称「赤本」）にある記入例などを参考に記入方法を覚えましょう。
簡単な記入例が北海道バドミントン協会のホームページにあります。

■　線審をするときの正しいシグナルを覚えましょう。

アウトのとき	大きな声で「アウト」とコールし 両腕を水平に広げて主審に合図する。
インのとき	無言で、右手でそのラインを指す。





※線審はシグナルと同時に主審を注視（アイコンタクト）しましょう。（公認審判員規程　第 8 条）

■　対戦相手や審判員（主審・線審）、競技役員をリスペクトしましょう。

プレーヤーとして求められること 競技規則などで求められるもの	マナーとしてふさわしくないこと 競技規則などで認められないもの
○ 最新の競技規則などを理解する	× 主審や線審に対して横柄な態度をとる
○ 対戦相手とあいさつや握手をする	× ネットをたたく
○ 審判員と握手をする	× 相手に向かって叫ぶ、ガッツポーズをする
○ 会場をきれいに使用する	× 相手へのリスペクトを欠く応援やかけ声

（2024 年 4 月版）